

本貫 千葉縣下總國東葛		士族			
族籍 飾郡關宿町七七番地		名 姓			
位 正三位勲一等功三級海軍大將		鈴木貫太郎			
生國郡 大阪府和泉國大島舊姓					
町村 郡伏尾村					
本由 天正六年六月廿二日死 妻タカ 明治十六年七月四日生					
母 天保九年十月八日生 大正四年六月七日嫁					
妻 天正元年九月十八日死 長女タカ 明治三年十月八日生					
弟 孝雄 明治三年十月廿日生 長男 一 全 三十四年十月廿日生					
弟 三郎 全 九年一月廿日生 次男 一 全 三十四年十月廿日生					
年號	月日	任叙轉免出張賞罰等	資格	官	衙
明治十七年九月四日		海軍兵學校へ入學			
全 二十年七月廿五日		海軍兵學校卒業			
全		海軍少尉候補生ヲ命ス			
全		實地練習トシテ筑波艦乗組ヲ命ス			
九月二日		米國へ發航ニ付賢所參拜被仰付			
全 四日		品海抜錨北米桑港墨西哥西古			
鈴木					
宮内省					
		國、コロンビヤ合衆國南洋タヒチ			
		島及布哇國ヲ經テ廿一年七月			
		六日品海飯着			
全 廿一年八月一日		筑波乗組ヲ免シ天竜艦乗組ヲ命ス			海軍省
全 廿二年五月十日		天竜乗組ヲ免シ高千穂乗組ヲ命ス			全
六月廿五日		任海軍少尉			内閣
全		補天城分隊士			海軍省
九月廿日		免本職補高雄分隊士			全
全 廿三年二月廿三日		横須賀元朝鮮國仁川へ航海			
土月十五日		免本職水雷術練習トテ迅鯨乗組ヲ命ス			海軍省
全 廿四年一月十日		賜上級俸			海軍省
七月七日		壹等水雷術尉官教程卒業 免等			
全 廿五年		補金剛分隊士			海軍省

全	海軍大學校將校科甲種學生 被仰	全
六月廿日	任海軍少佐	内閣
九月十日	叙從六位	宮内省
七月九日	海軍大學校將校科甲種學生被免	海軍省
全	補海軍省軍令部第一局々員	
	兼海軍省軍務局軍事課々僚	全
全廿二年二月一日	免本職專補海軍省軍務局軍事課々僚	全
全日	兼補陸軍大學校兵學教官	陸軍省
全三十日	海軍少尉候補生教育方法	
	調査委員ヲ命ス	海軍省
三月十四日	海軍少尉候補生教育方法	
	調査委員事務結了	
五月十六日	望樓長望樓手試験委員ヲ命ス	全
宮内省		
全日	海軍被服改良調査委員ヲ命ス	海軍省
全廿五日	兼補海軍大學校教官	全
七月廿日	本院教授任務ヲ囑託ス	學習院
七月廿日	教授上格別勉勵ニ付金九	
	拾圓ヲ賞與ス	陸軍省
全日	教授上格別勉勵ニ付金六	
	拾圓ヲ賞與ス	海軍省
全三十三年一月十五日	海軍大學校學生銓衡委員ヲ命ス	全
三月十四日	補賴英熙海軍少尉候補生	
	罷免取調委員ヲ命ス	全
全五日	免兼陸軍大學校兵學教官	陸軍省
全十六日	海軍大演習審判官陪從	
	被仰付	海軍省

